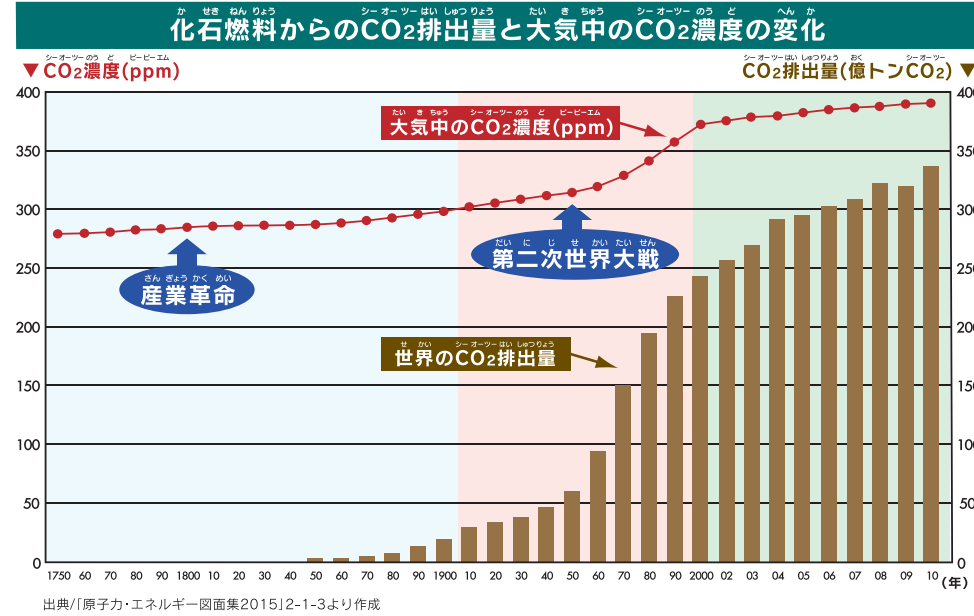


環境にやさしい車が
増えてきたのは、なぜ？

18世紀後半、イギリスで蒸気機関が開発されると、車は石炭や石油を動力源としてめざましい進化をとげてきました。けれども、化石燃料から排出される有害物質やCO₂は大気汚染や地球温暖化などさまざまな環境問題を生んでいます。地球環境のために、世界中で化石燃料の使用を減らすことが、いま求められています。



クリーンディーゼル車

ガソリン車と同じ距離を走ったとき、CO₂排出量が少ないのがクリーンディーゼル車のメリットです。
マツダ「アクセラ」(写真提供/マツダ)

ハイブリッドカー

ガソリンを燃料とするエンジンと電気で動くモーター。2つの動力を使い、車を走らせます。
トヨタ「プリウス」(写真提供/トヨタ自動車)

電気自動車

バッテリー(蓄電池)に貯めた電気の方でモーターを回して走ります。走行中は排気ガスを出しません。
日産「リーフ」(写真提供/日産自動車)

燃料電池車

水素と酸素を化学反応させて作った電気で走ります。CO₂や有害物質を出さず、水を排出するので空気を汚しません。
トヨタ「ミライ」(写真提供/トヨタ自動車)

エコカーについて、
もっとくわしく調べてみよう！
<http://aomori-energyclub.com/>
web エネルギーclub 検索

問題

未来の車はどうなる？
 自動車はどんなふうに変わってきたのでしょうか？
 未来の車はどうなるのか考えてみましょう。

ち きゅう かん きょう

地球環境にやさしい未来の車は？

み らい

くるま

21世紀が始まる直前、地球環境を考えたハイブリッドカーが誕生しました。
さらに電気自動車やクリーンディーゼル車、燃料電池車といったエコカーが次々と登場し、車は日々進化を続けています。

1907年(明治40年)、
国産初のガソリン車

吉田真太郎と内山駒之助が作った国産初のガソリン車は、道をガタクリ、ガタクリと走るので「タクリー号」と呼ばれていました。
写真は模型です。(写真提供/トヨタ博物館)

か せき ねん りょう

化石燃料の使用開始

し ょう かい し

1868年、国産初の人力車

和泉要助、高山幸助、鈴木徳次郎らが馬車にヒントを得て発明。明治時代は馬車と人力車が活躍していました。
(出典/『東京府下雑瓦石炭商家京橋組之図』、「大一区従京橋新橋塩屋瓦石造商家番品貴族状図帳」)

1904年(明治37年)、
国産初の蒸気自動車

日本で最初の蒸気自動車「山羽式蒸気自動車」。10人乗り、時速10～16kmで走りました。
写真は模型です。(写真提供/トヨタ博物館)

1935年(昭和10年)頃、
量産型自動車が発売

この当時、流線型の車体が世界的な流行に。写真は1936年トヨタ自動車が製造した「トヨタAA型」。写真はレプリカです。(写真提供/トヨタ博物館)

2000年

21世紀、
さまざまな車が走行中

